

ヒミコ
日食・超新星

天変から探る古代史

作花一志

超長寿のヒミコ

幻の女王ヒミコ，彼女は 1000 年以上も日本人を惹きつけ，また悩ましてきました。その出典はもちろん『魏志倭人伝』，その本格的な研究は江戸時代からですが，すでに『日本書紀』の成立前から行われてきました。ヒミコとは誰か？彼女がいた邪馬台国はどこにあったか？卑弥呼とは中国での当て字でこの字にこだわることはありません。America にアメリカとか亜米利加とかいう字を当てるようなものですから。わが国的には日巫女あるいは日御子でしょうが，ここではヒミコと書くことにします。ヒミコは 238 年から何度も魏へ使いを出しています。その時の魏の皇帝明帝は曹操の孫で呉・蜀と戦い続けていましたが，はるか遠国から来た女王に気前よく親魏倭王の称号，金印紫綬，銅鏡百枚さらに黄金，錦織物，刀剣などを授与します。これは魏帝への忠節，種人への綏撫を期待しての破格の待遇です。ヒミコはそのお墨付きで周囲の国々へ自らの権威付けをします。晩年，正始 8 年（247 年）狗奴国と争いのことが魏の朝廷に報告され，その年か翌年に魏使が来ますが，まもなくヒミコはなくなります。葬儀の後には後継者争いが起こり 1000 人以上の死者が出ますが，魏使の主導でトヨという少女が王となって収まります。

ヒミコの没年はかなりはっきりわかりますが，生年はわかりません。ただ即位年については『後漢書』の記載が重要なヒントになります[1]。

倭国はもともと男王が治めていた。桓帝・靈帝の治世の間（後漢：146 年～189 年）に大いに乱れ，互いに攻めあっていたが，ひとりの女子を共立して王とし，名付けて卑弥呼と言った。年すでに長大であるが夫婿はいない。弟が補佐して国を治めていた。

これを文字通り解釈すると，たとえヒミコが靈帝の末期に 10 代で即位としても，魏の使いを出したのは 50 年後で 60 歳過ぎ，狗奴国と戦っていた時には 80 歳近い老婆です。即位年が繰り上がれば彼女はゆうに 100 歳を越えて在位していたことにもなります。彼女は「鬼道をよくしていた」ので，当時の平均寿命の 3 倍も生きて，

<p>卑弥呼以死大作冢徑百餘步徇葬者奴婢百餘人</p>	<p>其八年太守王順到官倭女王卑弥呼與狗奴國男王卑彌弓呼素不和遣倭載斯烏越等詣郡說相攻擊狀遣塞曹掾史張政等因齋詔書黃幢拜假難升米爲檄告諭之</p>	<p>其國本亦以男子爲王住七八十年倭國亂相攻伐歷年乃共立一女子爲王 名曰卑弥呼事鬼道能惑衆年已長大無夫婿有男弟</p>
<p>圖 1 後漢書東夷傳 魏志倭人伝</p>		

州では7割くらい欠けます。地平線近くで欠け始め、細くなりながら没する太陽，明日はもう昇って来ないのではないかという不安を駆り立てる壮絶な光景です。

また翌年の9月5日の早朝にも起こりました。その皆既帯は能登半島から北関東さらに太平洋上に長く伸びています。中国ではまだ夜明け前，朝鮮半島では低空の東天 この皆既日食が見えた陸地は地球上で本州の一部だけですから黒い太陽の記録は世界中どこにもありません。近畿でも九州でも部分食とはいえ太陽は9割欠けます。太陽が欠けていく過程は見られず現れた時にはすでにやせ細った状態，そしてすぐに復円が始まり，7時にはすべて終了し



図3 248年の皆既食

ます。この日食の後半の過程を見た当時の人々はきっとホッとしたことでしょう。もしあなたがこれら2つの日食を眺めたとしたらどのように感じますか？これらの日食は現在PCで再現できますが，日食の記載はどこにもありません。ただしこれらの日食は人々の記憶に残って伝承として伝えられていないものか・・・いやあるのです，記紀の中に。いうまでもなくアマテラスの天の岩屋戸日食です[2][3]。



図4 ヒミコと日食(中西久崇)

この日食候補は多数ありますが詳細は省略します。結果として
247年の日食

- ・・・ヒミコの死，内乱勃発
- ・・・アマテラス岩屋戸に隠れる

248年の日食

- ・・・トヨの即位，内乱終結
- ・・・アマテラス岩屋戸から出る

を表したものと考えてよさそうです。記紀の成立は8世紀ですから，

その数百年間で次第に変形していき，ヒミコとトヨという2人の女王がアマテラスという皇祖女神にまとめられたと考えられます。

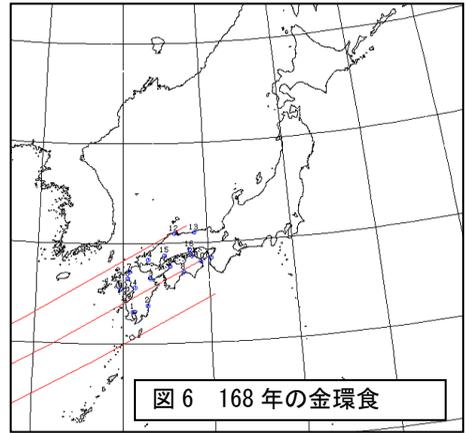
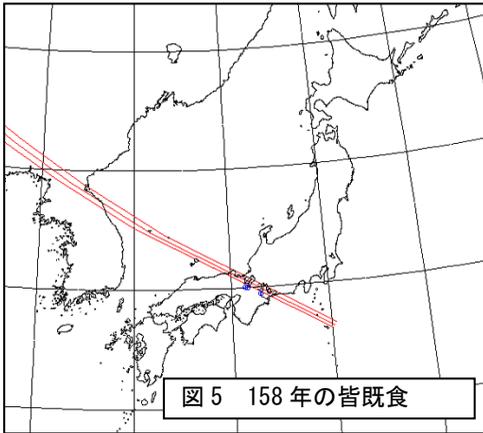
共立即位の契機は天変

ではなぜ鬼道をよくする独身女性が女王に共立されたのか？そのわけは，その時起こった天変のためではないでしょうか。ある日突然起こった天変

に人々は神の怒りに触れたと思い、戦いをやめて、日の神に仕える巫女を推し立てました。そのような大天変とは何でしょう？地震や津波のような長期間被害が出るものより、短期的ではあるが大ショックを与える天文現象の方が適しており、それには2つの候補が考えられます。

まず日食：146年～189年に西日本で見た大日食は次の2つです[3]。

158年 7月13日 夕方	皆既	若狭湾～伊勢湾	図5
168年 12月17日 夕方	金環	九州・中四国	図6



前者では日の入り前に皆既が起りやがて復円しながら沈んでいきます。大和盆地では皆既帯から外れますが大日食で、また北九州でも日没直前に細い太陽が見られます。後者は金環時間が長いことで有名で、九州各地では7～8分、東南アジアでは10分を越えたそうです。これもまた日没前の日食です。日食が起こったため戦いをやめたという伝承は中東にもありません（タレスの日食 BC585年）。

ある日突然起こる天文現象で、最も劇的なのは超新星爆発です。前日まで見えなかった天空に突如として新たな星が現れる現象で、放射するエネルギーは1万倍以上も急増します。その原因は大質量星の最期の大爆発です。現在では毎年100個以上見つっていますが、望遠鏡使用前に観測された超新星の記録は7回しかなく、そのうち太字の3件は藤原定家の『明月記』に載っていて平安時代の陰陽師の観測によるものです。1006年の超新星は半月より明るく輝いていたそうです。また1054年の超新星の残骸が「かに星雲」であり20世紀後半の高エネルギー天文学のモデルとなった花形天体です。その出現記録は日本と中国にしかありません。

表 1 望遠鏡なしの超新星観測史

年	出現星座	最大等級	型	距離	備考
185	ケンタウルス	-8 等	I	8200 光年	RCW86
393	さそり	-1	?	3000	G347.3-0.5
1006	おおかみ	-9	I	7000	史上最輝星
1054	おうし	-4	II	6500	かに星雲
1181	カシオペア	0	II	10000	クォーク星?
1572	カシオペア	-4	I	13000	ティコ超新星
1604	へびつかい	-2.5	I	13000	ケプラー超新星

超新星出現の最古の記録は『後漢書天文志』に記載され、靈帝中平二年十月癸亥(=185 年 12 月 7 日)に現われたそうです。この超新星残骸は RCW86 と呼ばれる淡い星雲で南十字星の近くにあり、現在黄河のほとりからは見えません。しかし地球の首振り(歳差)運動のため 1800 年前にはこ



図 7 185 年の超新星



図 8 超新星残骸 RCW86

の天域はもっと高く見え、洛陽での南中高度は約 2 度となります。南中時刻は朝の 8 時ころ、当然太陽は昇っていて、その中で見えたとすれば非常に明るかったはず、1006 年の超新星と並ぶ史上最輝星ということになります。この客星は 1 年半も見えていたそうです。翌年の春になれば深夜、地平線あたりでギラギラ輝いていたのが眺められたでしょう。客星の北にはケンタウルス座 α 星、その西(右)には β 星、さらに南十字星が見えます。また東(左)にはさそり座が、その上には火星が明るく見えています(図 7)。最近 RCW86 の X 線観測から 1800 年前の爆発が検証されました。図 8 はこの超新星残骸を X 線と赤外線のみた合成画像です[4]。

表2 SN185の各地の南中高度

地名	北緯	高度(2000年)	高度(185年)
飛鳥・長安	34.5	-7	2
建業(南京)	32	-5	4
ローマ	42	-15	-6
アレキサンドリア	31	-4	5

この星を見たのは誰でしょう？ヨーロッパでは緯度が高くて見えません。エジプト、ペルシア、インドなどに記録が残っていてもよさそうですが、わかりません。中国では三国志物語の幕開けのころです。すでに活動を始めている曹操・劉備よりは、まだ幼子ながら南方にいた諸葛孔明や孫権の目に留まる可能性が高いでしょう。後漢書の記載者は多分江南の人から聞いたのでしょう。

わが国からも小高い山に登れば南の地平線のあたりに見られます。ころは倭国大乱が終息するころ、そのきっかけを作ったのは、日食ではなくこの超新星の出現という天変かもしれません。いち早くこの客星を見つけたヒミコは諸国に停戦を呼びかけ、女王に共立されたのかもしれませんが、いやそう考えたいですね。p2に述べたようにこのヒミコは初代女王で、魏に使いを出したヒミコではありません。女王制はトヨまでは継続しますが、その後消滅してしまいます。中国の文献にも266年に倭女王から遣いが来たという記載が最後です。男系大和朝廷に併合されたのか、それとも逆に女王制邪馬台国が東遷して大和朝廷になったのか？それを天変から推測するのは無理なようです。

以上をまとめると下表のようになります[5]。

表3 天変と歴史上の事件

年	天変	歴史上事件
158	皆既日食	
168	金環日食	
185	超新星出現	初代ヒミコ即位 倭国大乱終息
238		ヒミコ魏へ遣いを送り親魏倭王の称号、金印紫綬、銅鏡百枚などを受ける
247	日食	魏使来る ヒミコ没 内乱
248	日食	トヨ即位
266		トヨ 晋へ遣いを出す

最後にアマテラス日食はいつでしょうか？伝承の元になった日食の候補は多数あり，その特定のための議論は 100 年以上も続いていますが決め手はないようです。ヒミコの時代から記紀が成立するまで何回か大日食は起こっていますが（247 年、248 年、522 年、628 年）どれかに特定するのではなく「それらの日食の記憶と初代ヒミコからトヨも含め推古・斉明までの女王の記憶がすべて重なって伝えられ，7 世紀末にアマテラス伝説に纏められた。」と考えた方が自然ではないでしょうか。



図 9 天の岩屋戸（春齋年昌）

参考文献

- [1] 山尾幸久『魏志倭人伝』 講談社現代新書 1972
- [2] 斉藤国治『宇宙からのメッセージ』 雄山閣 1995
- [3] 「日食・月食・星食情報データベース」
<http://www.hucc.hokudai.ac.jp/~x10553/>
- [4] RCW 86: All Eyes on Oldest Recorded Supernova
<http://chandra.harvard.edu/photo/2011/rcw86/>
- [5] 作花一志『天変の解読者たち』 恒星社厚生閣 2013